

クォーターレポート（6月・9月・12月・3月の年4回発行）

気仙沼・南三陸だより

第21号 平成29年6月

発行：気仙沼地方振興事務所



気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 本吉農業改良普及センター：南三陸「ねぎ料理レシピ集」を作成しました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 農林振興部：生産者の熱気に包まれた園芸振興大会 ほか
- 気仙沼地方振興事務所 水産漁港部：わかめの収穫が終了しました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 地方振興部：高校生を対象とした企業見学会を開催しました ほか

南三陸「ねぎ料理レシピ集」を作成しました (本吉農業改良普及センター)

気仙沼・南三陸では、東日本大震災の津波で被災した農地の復旧にあわせ、新たなねぎ産地を目指して地域ぐるみでねぎ生産に取り組んできました。農協・市町・県で構成する気仙沼・本吉地域農林業振興推進協議会でもねぎの生産振興に取り組んできました。

ねぎ生産振興の一環として昨年10月25日に開催した「南三陸ねぎ料理レシピコンテスト」では気仙沼・南三陸地域内外から70作品の応募をいただきました。そこで、応募いただいたアイデア料理全てを掲載した「ねぎ料理レシピ集」を作成しました。

レシピコンテストには、一般の方だけではなくプロの方からも応募が多数あり、レシピ集には手軽に作れるものから、手の込んだものもあり、本書を見ていただければねぎ料理の幅が広がるのが間違いのない内容となっております。

なお、レシピ集は下記 URL よりダウンロードできます。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/minami-negikon.html>



ねぎ料理レシピ集



アイデア料理(一例)

本吉地区第1回みやぎ農業未来塾を開催しました (本吉農業改良普及センター)

4月28日に、宮城県農業大学校の管内出身1年生2名を対象とした第1回みやぎ農業未来塾を開催しました。今回は農業大学校を卒業した若手農業者や本吉地区4Hクラブ員などの世代の近い優良事例を視察し、出身地域の農業をより深く理解することを目的としました。

視察先は気仙沼市階上地区でイチゴを栽培している3名のほ場で、それぞれから経営の概要や栽培状況、4Hクラブについて、農業大学校での生活に関するアドバイスや就農時の悩みや注意点など幅広く説明していただきました。

クラブ員から細かくアドバイスがあったことに加え、学生からも4Hクラブへの入り方や学生生活中にやるべきことに関する質問や、さらに広範囲な管内農業の概要や普及センターの業務内容に関する質問が飛び交い、出身地域の農業をより深く理解できた有意義な視察研修となりました。



未来塾に参加した農大生



4Hクラブ員の話聴く農大生

○4Hクラブ(農業青年クラブ)とは？

将来の日本の農業を支える20~30代前半の若い農業者が中心となって組織され、農業経営をしていくうえでの身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討したりするためのプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っているのが、4Hクラブ(農業青年クラブ)です。

同クラブは、現在、日本全国に約850クラブ、約1万3千人のクラブ員が、それぞれの活動を通じて、若手農業者の刺激となりつつ、「日本や世界で貢献できる農業者」となることを目指しています。

4Hとは、農業の改良と生活の改善に役立つ腕(Hands)を磨き、科学的に物を考えることのできる頭(Head)の訓練をし、誠実で友情に富む心(Heart)を培い、楽しく暮らし、元気で働くための健康(Health)を増進するという、同クラブの4つの信条の頭文字を総称したものです。

4Hクラブは全国の市町村や道府県を単位として組織されています。また、クラブ員の健全な発展を図り、日本農業に貢献することを目的として、「全国農業青年クラブ連絡協議会」が組織されています。

(農林水産省 HP より引用 http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/4hclub.html)

シーサイドファーム波路上株式会社によるネギの定植作業が行われました (本吉農業改良普及センター)

5月11日に、気仙沼市杉の下工区でシーサイドファーム波路上株式会社によるネギの定植作業が行われました。

東日本大震災から6年と2ヶ月が経過し、ほ場整備工事が行われた後に引き渡された杉の下工区の農地に、初めて作物が定植されました。



定植の様子

シーサイドファーム波路上株式会社は震災後に設立した農業生産法人であり、地域農業の担い手として大規模なネギ栽培とイチゴ栽培を手がける予定です。当日は約50aの定植が行われ、6月末までに約3haの定植を行う予定です。

作業の開始直後は、初めて利用する機械の操作方法を指導してもらいながら、丁寧に定植を行いました。

生産者の熱気に包まれた園芸振興大会 (気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

管内における園芸品目の生産は、東日本大震災により沿岸部の産地が被害を受け、大幅に減少しましたが、農地及び施設等の復旧に伴い、生産者及び関係者の御努力によって徐々に回復してきています。

また、津波被災農地のほ場整備地区を中心にねぎの作付けが拡大し、新規農業法人が2haの大規模施設でトマト生産を開始するなど、新たな取組も見られています。

今後、当地域で園芸振興をさらに進めるために、3月10日、気仙沼市本吉町において、南三陸農業協同組合との共催により「気仙沼・南三陸地域園芸振興大会」を開催しました。

講師には、被災地においてねぎ栽培等に取り組んでいる仙台市の農業法人「井土生産組合」の大友理事をお招きし、講演をいただきました。その中で、復旧農地の栽培では排水不良でうまくいかなかったことや具体的な経営目標を設定して取り組む必要があること、ICT(情報通信技術)による栽培履歴の管理に挑戦していること、さらには消費者との交流をすすめていることなど、優れた取組の紹介がありました。

この後、農協営農指導員によるいちご、トマト等の生産振興の取組について、報告がありました。

当日は、大勢の生産者や関係者が出席して予想以上の盛況となり、熱気に包まれた大会となりました。今後、復旧農地の引渡しが一層進むことから、ねぎを初めとする園芸品目の作付拡大に対する関係機関の期待は非常に大きく、今後も栽培技術の向上や経営の安定化に向けた支援を継続してまいります。



先進事例から栽培技術や経営のノウハウを学ぶ



出荷最盛期の「春告げ野菜」

海岸防潮堤及び海岸防災林の復旧状況について (気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

東日本大震災で被災した海岸防潮堤や海岸防災林など 34 箇所中 14 箇所を優先して復旧工事を進めています。一部の工事が完成していますので紹介します。

1 林地荒廃防止施設災害復旧事業

(1) 波伝谷海岸防潮堤(南三陸町戸倉地内)

(2) 崎野海岸防潮堤(気仙沼市波路上地内)

当該地には、波浪、高潮から住宅や道路等を保全するため、海岸防潮堤及び海岸防災林が整備されていましたが、東日本大震災と直後の大津波によって被災しました。このほど L1 津波に対応する海岸防潮堤として復旧工事が完了しています。また、海岸防潮堤の背後にはクロマツを植栽して海岸防災林を造成する計画としています。



波伝谷海岸防潮堤



崎野海岸防潮堤

2 海岸防災林造成事業

(1) 岩井崎海岸防災林(気仙沼市波路上明戸外地内)

(2) 沖ノ田海岸防災林(気仙沼市本吉町沖ノ田地内)

海岸防災林は、潮害、飛砂・風害防備のほか、保健休養、生物多様性保全に加え、農地等を災害から守り、生活環境の保全に重要な役割を果たしています。

海岸防災林は、津波エネルギーの減衰、漂流物の捕捉などにも効果がありましたが、地下水位が高い場所では根返り(倒伏)し、流出したものが多数ありました。このため、地下水の影響を受けないように盛土を行って用地を造成し、海岸防災林の機能を早期に発揮させるとともにマツクイムシ被害対策も考慮して、抵抗性クロマツを植栽しています。



岩井崎海岸防災林



沖ノ田海岸防災林

わかめの収穫が終了しました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

気仙沼本吉地方の今漁期のわかめは、低気圧や台風による大きな被害を受けず、加えて、芽落ちや色落ち等の病障害もほとんどなく順調に生育し、2月9日に初入札が行われました。

4月30日には、今季最終(10回目)となる養殖わかめの入札が行われ、塩蔵わかめ273トンが入札にかけられました。10キロ当たりの最高値は15,700円、最安値は2,000円となっており、平均単価は9,700円という結果となりました。

今季の累計は、前年より数量で140トン多い2,148トン、金額は、1億4,000万円上回る20億7,900万円、平均単価9,700円(対前年比100.2%)となっており、高値を維持して終了しました。

生産者にとっては、収入の良いシーズンとなりました。



入札の様子

県漁協歌津支所青年部・唐桑支所女性部が全国青年・女性漁業者交流大会に出場しました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

3月1日、2日に東京都内において「第22回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。

本大会は、全国の青年、女性漁業者が日ごろの研究や実践活動の発表を通じ、知識や情報の共有・意見交換を行い、漁村の活性化や担い手の確保育成等に繋げることを目的とするもので、全国から39の個人・団体が参加し、流通・消費拡大、地域活性化など5部門に分かれて実践事例などを発表しました。

宮城県代表として、当管内の歌津支所青年部が「磯焼け対策により駆除したウニの有効活用と藻場の再生」、唐桑支所女性部が「未利用資源の有効活用等について」を発表したところ、それぞれ浜を活気づける取組が評価され、歌津支所青年部が水産庁長官賞、唐桑支所女性部がJF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞しました。



会場の様子



歌津支所青年部受賞の様子



唐桑支所女性部受賞の様子

高校生を対象とした企業見学会を開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

3月14日、気仙沼市内において、高校生を対象とした企業見学会を開催しました。

この見学会は、高校生の地元企業に対する理解を深めるとともに、地元企業における人材確保を目的に、当所と気仙沼公共職業安定所の共催により実施したものです。

当日は、宮城県気仙沼西高等学校の生徒(2年生)34人が気仙沼市内の衣類や水産加工品のメーカー、金融機関の計4社を訪れ、施設見学を行いました。企業との意見交換時には、社内研修制度の有無等についての質問を積極的に行い、今後の進路の参考にしていました。



工場見学する生徒達

南いわて・北みやぎ ドライブマップを作成しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

気仙沼地方振興事務所では、宮城県及び岩手県の県際地域の観光振興に取り組んでいます。

今回、当事務所が構成員となっている「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」において、「南いわて・北みやぎ ドライブマップ」を発行しました。

このドライブマップでは、栗原市、登米市、南三陸町、気仙沼市、一関市、平泉市、陸前高田市、大船渡市、住田町の観光地が大きな地図で確認できます。さらに、モデルコースが紹介されており、日帰りでも泊まりがけでも使いやすい内容となっています。

また、ご当地グルメにも触れていますので、県境を越えておいしいものを求め、走るのもおすすめです。

県際地域の観光協会、観光案内所、行政機関などで配布しておりますので、是非このドライブマップを片手に宮城・岩手県際地域の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

